

令和6年6月15日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

# き ず な

す 住 み よ い げん き な みどり の さと おお くさ の 野

## 全校児童で芋さしをしました！ (5月30日：木曜日)



28日(火)予定の芋さしが2日間延びましたが、天気が回復し、土の状態も良好でした。

児童全員が、6つの縦割り班に分かれ、上級生たちが下級生のお世話をしながら30分ほどで芋挿しは完了しました。

子ども達は、「秋の収穫が楽し



みです」と感想を言ってくれました。次に、2時間目は和光幼稚園の年長さんと1年生で芋挿しをしました。そのときは、1年生がお兄さんお姉さんらしく年長さん達に教えてあげながら仲良く芋挿しができました。秋になったら、大きい芋がたくさん収穫できたらいいですね。今からどうやって食べるのが美味しいのか？みんなで研究しておいてください。

校舎の改装が間もなく始まりますが、子ども達の楽しい時間になるべく減らないように

して欲しいと思います。実際に、自分の目で見て、手で触って、感触や感覚を養いながら子どもは成長していきます。そんな時間をたくさん用意してあげるのが、大人の役割だと思います。



芋挿しを終えての記念撮影です！

## 今年度2回目 防災広場の除草作業

(6月8日：土曜日)

4月13日(土)に1回目の除草作業をして、8週間が過ぎました。少し天気が怪しかったのですが、何とか作業が終わるまでは、パラパラ程度で済みました。今回の作業には11名が参加してもらいました。新しく、湊ジュニアに参加していただき、30代前半の若々しいエネルギーが投入されたことで、70代のGメンも大歓迎の様子で、何やらニヤニヤしながら個人情報への質問攻めをしているGもいました。と、言う感じで第2回目の作業も無事終了しました。 **防災広場草刈隊員、募集中です！**



# 稚魚放流体験：4年生と年長さんで！（6月6日：木曜日）

稚魚放流の事業を始めてから4回目(4年目)になります。昨年までは、大草野の象徴みたいな蛍橋の下で行いましたが、今年も用水路の工事のあと、護岸道路から降りたすぐのところは水溜まりになっていたので、板井手堰の上流の階段状の場所で行いました。周囲の景色としては蛍橋のところは断然いいのですが、大きな石がごろごろして、年長さんにはとても歩きにくいだろうと思っていましたので、この際思い切って足元が安全な方を選びました。



先生方も、こちらが安全でいいですね、との感想でした！



カニをつかむの、へっちゃらですよ！

学校も。「この方がやりやすいですね。」と言っていました。

さて、肝心の稚魚放流体験の方は、子ども達の生き物に対する反応が、本当に様々で、そんな子どもの様子を見ていて飽きません。

ウナギもカニも怖がらず、タライからつかみ上げて、「ちぎっては投げ」状態の子や、身をすくめて一度も手を伸ばせない子、



「ちぎっては投げ」状態の生き物好きです！

最後には泣き出す子やら、それは、満艦飾の船を眺めているような、個性の花盛りでとても賑やかさを感じました。

今年も、市の農業政策課の担当者が、紙芝居風に稚魚放流の説明をしてくれました。放流したウナギが、一度、海まで行って、卵を産んで、その卵が孵化して、また川を上ってくるというお話が、この塩田川で本当に実を結ばばいいなと思います。

もう、今から来年の放流が楽しみです！

## 学校前花壇の除草作業

(5月25日：土曜日) 環境整備部会

環境整備部会の、6年度の初仕事、学校前の花壇の除草作業を行いました。当日は、役員主体で芋畑も芋挿しの準備を行っていて、同時進行になりました。除草作業の方は、畑の所有者の西野式浪区長が下準備をしてもらっていたのもあって、部会員中心に9名程度で、1時間しないで完了しました。

まもとに申し訳ないことに、自分も作業に加わっていると、ときどき忘れてしまうのが写真撮影です。

今回も同じことをやらかしています、環境整備部会の方々、証拠写真がなくてゴメンナサイ！！



「とてもたのしかったです！」と、じょうずに感想を言ってくれました。ありがとう！

「正しく使うへ」  
「正々堂々」と言う言葉は、まもなく死語になるかも知れない、と思うようなことをたくさん見聞きします。NHKの調査報道という番組を見てあらためてそんな気持ちになりました。現状を、発生している事案からひと言で表現すると、「卑怯者増産社会」と言えるのではないのでしょうか。その原因の多くは、SNSの普及にあると思います。小学生に入るころから自分のスマホを持ち、仲間と一緒にいても会話はせず、近くにいる友の悪口を、スマホで簡単にやり取りができる環境の中でずっと育ってしまえば、それは当たり前になつてしまつてしまうでしょう。相手にとってマイナスなことを「注意」や「助言」として面と向かって、発言することをしなくなり、子ども社会も「陰口社会」になってしまふかも知れません。もちろん、パソコンを理解し使えるようにする小学生への教育は必須不可欠で、すでに始まっています。私は、それと並行して情報倫理の教育も同じ時数くらい必要だと思えます。ウナギやカニと楽しそうに戯れている子ども達を見ながら、これからの人生で深い傷を負わないように「転ばぬ先の杖」を持たせる必要を強く感じています。

〈編集後記〉